

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	キャンパス・地域連携小委員会	主 査 名：倉田直道 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小林英嗣 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【設置目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と大学の連携に対する都市計画的な方向性 ・ キャンパス施設環境の計画とマネジメントを地域との関係も含みつつ戦略的に実行していくための方法論 ・ 都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法 ・ 小委員会活動を外部組織、団体に還元していく社会貢献に関する連携関係の構築 <p>【各年度活動計画】</p> <p><u>09 年度</u>：3つの WG（サステイナブルキャンパス、都市・地域と大学経営、連携コミュニティ形成支援）が、役割分担をしつつ、上記の4つの目的を達成するように活動を展開する。</p> <p><u>10 年度</u>：これまでの大会 PD 等ででてきた課題、および 2009 年度に実施する事例調査をふまえ、都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法を検討、「サステイナブルキャンパス」を構築するためにその枠組みとガイドラインの検討、国際的なネットワークにおける交流、「情報交流シンポジウム」、「大学・地域連携のための勉強会」を行い、地域の活動支援につながるアクションプラン構築を目指す。</p> <p><u>11 年度</u>：学会大会行事（技術部門設計競技）の企画、オーガナイズドセッションの企画運営を行うと共に、国際ネットワーク組織と出版、データベース構築などのワーキング活動の支援を行い、10 年度の活動を発展、展開させる。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>倉田直道 (工学院大学)、小松尚 (名古屋大学)、小篠隆生 (北海道大学)、坂井猛 (九州大学)、上野武 (千葉大学)、斎尾直子 (筑波大学)、有賀隆 (早稲田大学)、鶴崎直樹 (九州大学)、的井宏樹 (内閣官房地域活性化統合事務局)、土井一成 (横浜市)、江川直樹 (関西大学)、山崎雅男 (文部科学省大臣官房文教施設計画部)、恒川和久 (名古屋大学)、三宅諭 (岩手大学)、遠藤新 (工学院大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>サステイナブルキャンパス WG：「サステイナブルキャンパス」を構築するためにその枠組みとガイドラインの検討、国際的なネットワークにおける交流</p> <p>都市・地域と大学経営 WG：(1) 都市計画論、地域経営論からの分析の視点、(2) 都市再生施策、施設整備計画の視点等から、都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法を検討</p> <p>連携コミュニティ形成支援 WG：情報交流シンポジウム、「大学・地域連携のための勉強会」を行い、地域の活動支援につながるアクションプラン構築</p> <p>キャンパス・アーバンデザイン WG：大学キャンパス計画を大学の固有の計画と捉えるだけでなく、都市デザインの重要な要素として捉えた場合の計画論・手法を検討</p>	
2011 年度予算	300,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/</p>

項 目	自己評価
委員会開催数	8回（年度内計画を含む）（4/20,5/18,7/23,8/24,10/5,12/3,1/24,3/13（予定））
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	いまからのキャンパスづくり 大学の将来戦略のためのキャンパス計画とマネジメント（2011年11月刊行）
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	情報交流シンポジウム（第15回）（早稲田大学）「キャンパスと地域のサステナビリティⅡ 震災と大学キャンパス、復興期の地域との連携」 参加者数 50名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	<p>1. 当初計画した行事（シンポジウム、オーガナイズドセッション）は、予定通り実施することができ、目標を達成できた。また、シンポジウムを準備する段階で全国主要大学へ東日本大震災に関する緊急アンケート調査を行い、各大学の対応を把握する同時に、その中から明らかになった課題などを含めて、数校の大学に対してヒアリング調査を行って、大震災時の地域大学連携の必要性とそのあり方明らかにした。</p> <p>2. アンケート・ヒアリング調査の結果については、冊子体のまとめを行って、本小委員会として、大学と地域の連携の平時からの取り組みの重要性を明らかにするとともに、広く関係者や社会への情報共有活動を実施できた。</p> <p>3. 出版企画を掲げていた大学のキャンパス計画とマネジメントの重要性に焦点を当てた図書を最終的な編集を行って刊行できた。</p> <p>4. 6月に開催された International Sustainable Campus Network の年次国際シンポジウムにて研究成果を発表し、各国の関係者との議論とネットワークづくりを深めた。</p> <p>5. 2012年2月4日に開催された国際シンポジウム「持続可能な地域マネジメントのための共創システム」（地域・環境再生に向けた共創システム研究会（代表・小林英嗣））の企画・運営に協力をした。</p> <p>6. 3WGによる研究活動も役割分担をしつつ行い、それぞれで成果をだすための活動を展開している。また4番目のWG（アーバンデザインWG）を設置し、都市デザインの観点から、キャンパス空間と都市空間の計画論のあり方などの議論を開始した。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 小委員会設置最終年として、社会に対する発信をどのように行っていくかについて検討する必要がある。</p> <p>2. 各WGの成果を発信できるまとめを行うため方策の検討。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。